

議事概要	
会議の名称	令和5年度第1回長久手市文化の家運営委員会
開催日時	令和5年8月17日(木) 午後6時30分から午後8時まで
開催場所	長久手市文化の家 企画室A・B
出席者氏名 (委員50音順、敬称略)	<p>【委員】</p> <p>浅野芳夫 大村真也 梶田美香 加藤千恵 川北真紀子 小林大地 佐藤文子 鈴木香代子 野田かなえ 安原雅之</p> <p>【事務局】</p> <p>くらし文化部次長 高木昭信 生涯学習課 担当課長兼文化の家館長 生田創 事業係長 黒野雅直 施設係長 近藤一英 施設係専門員 水谷一義 施設係主任 野田悠子</p>
欠席者	なし
傍聴者人数	0人
会議公開・非公開	公開
概要	<p>1 報告事項</p> <p>(1) 令和4年度施設管理運営報告</p> <p>(2) 令和4年度(令和5年2月・3月実施分)事業報告</p> <p>(3) 令和5年度事業計画報告</p> <p>(4) 令和5年度(4月～6月分)事業報告</p> <p>2 議題</p> <p>文化の家特定天井等改修工事について</p> <p>3 その他</p>

議事録	
18:30	1 あいさつ くらし文化部次長あいさつ

事務局	<p>本会議は、過半数の委員が出席しているため、成立していることを報告。</p>
事務局	<p>【委員長選出】 文化の家運営委員会設置要綱第3条に、委員長は、委員の互選により選出とある。推薦等はないか。</p>
委員	<p>他委員により梶田委員が推薦される。</p> <p>(異議無く満場一致で梶田委員の委員長就任が可決)</p>
事務局	<p>設置要綱第3条の3の規定に基づき、職務代理者を定める必要があるため、委員長に職務代理者の指名を依頼。</p>
委員長	<p>浅野委員を指名。</p>
事務局	<p>ここから議事進行を委員長にお願いする。</p>
委員長	<p>文化の家は今年開館25周年迎えた。記念すべき年にみなさんと運営委員として携われることをうれしく思う。文化の家のさらなる発展を願い、委員各位と協力していきたい</p>
	<p>2 報告事項 (1) 令和4年度施設管理運営報告</p>
事務局	<p>(【資料1】に基づき、説明)</p>
委員	<p>光熱費高騰が社会的な問題となってきた。光熱費高騰が予算を圧迫していることはないか。</p>
事務局	<p>補正予算で対応している。令和4年度は年間2回補正予算を計上し、計2,900万円ほど増額した。</p>
委員	<p>音楽スタジオ等の利用率が上がっている。市民による活動が活発化してきているのか。</p>
事務局	<p>全体的に利用者の活動度が上がってきている。アトリビングは</p>

事務局	<p>もちろん、各ホール等館内に活気もどってきている印象がある。</p> <p>(2) 令和4年度(令和5年2月・3月実施分) 事業報告</p> <p>(【資料2】に基づき、説明)</p>
委員	<p>アンデゴハンダン展は何点ほどあったのか。</p>
事務局	<p>24点程度である。</p>
委員	<p>くっつけまつりで、講師は保育園児に対してどのようなディレクションを行ったのか。</p>
委員	<p>子どもたちには「好きな材料同士をくっつけてください」と指示するだけである。材質によって接着剤のみではくっつかないものをどのようにくっつけるのかを子どもたちが試行錯誤する。講師としては、(穴を開けて紐でくくってみては等) 技術的な助言するのみ。材料については、子どもの想像力をかき立てそうな物を集めた。</p>
委員	<p>学生がワークショップを企画しているので参考にしたい。</p>
委員	<p>2月、3月のみの2か月という短期間であるが、事業数が多い印象を受けた。世界的なアーティスト招聘から誰でも参加できるものまで、幅広い事業が展開されていた。アンデゴハンダン展が無審査であることに驚いた。無審査の場合、作品に対する責任は出品者が負うこととなる。出品者はどのような反応だったのか、さらには今後の展望を聞きたい。</p>
事務局	<p>出品者の一部に話を聞いた。その人は、普段ほとんど絵を描かない人だった。「誰でも作品を出して良い」というチラシの文言を見て、応募したようだ。出品者として自身の名前は出ないが、展示されただけで嬉しかったようだ。出品者は観覧者からのコメントも読んだそうだ。普段絵を描かない人でも出してみたい、やってみようというきっかけ作りになったのではないかと。今後については、展示室に収まる点数で続けていきたい。現状としては、美術系創造スタッフが会場内に収まるように展示方法を提案している。</p>
委員	<p>アンデゴハンダン展のアンケートは、参加者(出品者)からの声もあるとよいのでは。</p>

事務局	今後、出品者のアンケートも検討する。
委員	無審査で問題は起きていないか。
事務局	募集要綱上である程度制限はしている。
委員長	音楽よりも美術のほうが裾野が広く、参加しやすいのがよかったのだろう。
委員	以前、文化の家で誰でも参加できる演奏会（自由演奏会）があった。とてもよい企画だと思った。アンデゴハンダン展と自由演奏会が対をなすような規模になると良いと思っている。
委員	アウトリーチや公演時における中止対応の判断基準はあるか。
事務局	警報発令時または発令が予測できる場合は、中止することがある。アウトリーチの場合は、学校側の都合もあるため早めに判断している。自主事業は台風接近で中止となった事例はない。愛知県立芸術大学との提携事業では、前日に中止を判断した事例が1件ある。
	(3) 令和5年度事業計画報告
事務局	【資料3】に基づき、説明)
委員長	25周年企画が多くあった。来場した市民の声はどうだったか。
事務局	来場者からの評判は大変よかった。フリースペースの展示方法は美術系創造スタッフが考案した。来場者の思い出メッセージを展示するスペースも設けた。文化の家に関わった思い出を市民が振り返る機会となった。
委員長	劇場のアーカイブを市民と共有できることは貴重である。市民が関わってきた実態があるからこそできること。
事務局	長久手の知られざるお店のマルシェも開催し、好評だった。多角的に捉えた長久手らしさを見せた。

委員長	3月に予定されているシンポジウムの内容はどのようなものか。
事務局	<p>アーカイブをテーマ予定としている。ただ振り返るだけではなく、アーカイブが果たす役割を伝えたい。劇場のアーカイブはまだまだ未開の領域であり、事例は少ない。しかし、アーカイブには劇場がそれまで積み重ねた実績をどのように後世に伝えていくか、という重要な役割がある。実績を振り返っているが、未来に繋がっている。そのようなことがテーマとなってくるだろう。</p>
委員	<p>組織アイデンティティを研究している。文化の家らしさをどのように表現するかを言語化できるように、アーカイブを役立ててほしい。積み上げてきたミクロな実績がマクロに繋がっていかないのが惜しい。対外的にアピールしてほしい。</p>
委員長	<p>次世代への継承はどこの劇場、組織でも課題となっている。</p>
<p>(4) 令和5年度（4月～6月分）事業報告</p>	
事務局	<p>【資料4】に基づき、説明)</p>
委員	<p>自主事業計画はどのようなタイミングで決まっていくのか。</p>
事務局	<p>自主事業には、毎年定例的に開催しているものや新企画がある。両者のバランスを調整しながら前年度夏頃までにある程度決定している。</p>
委員	<p>長久手らしさを25年続けているのが素晴らしい。マンネリ感も感じない。企画しているときに気をつけているところはどのようなところか。</p>
事務局	<p>長久手市文化芸術マスタープランの存在が大きい。プランに沿って各種事業を計画している。マンネリ化防止にも役割を果たしている。長久手らしさは特に意識していない。地域のアーティストと協働していることが長久手らしさに大きく影響している。次々と新しい才能を持った人との出会いがある。職員も人事異動のため入れ替わりがあり、風通しがある。新しいアイデアを生み出す風土があると思う。</p>

委員	アーティストも職員も力んでいなくて、自然体なところが魅力的だ。その雰囲気は継続させてほしい。
委員長	演奏者として自主事業に関わったことがある。演奏者側がやりたいことに対して、職員から否定されることがなかった。少々難しいことを言っても受け入れてくれる印象がある。それが演奏者にとってやりやすい環境なのだと思う。
委員	コリン・カリー・グループは観客として鑑賞者した。オリジナル色が強い事業は、企画から実施まで苦勞することが多いと思うが、現場では職員の充実した表情がみられた。常にそのような雰囲気があるので、大学としても安心して学生を送り出せる。
	<p>3 議題</p> <p>文化の家特定天井等改修工事について</p>
事務局	(【資料5】に基づき、説明)
委員	休館予定期間は、どのようなことをするか考えているか。
事務局	ホールは使用できないため、アウトリーチや公民館を活用した事業を検討したい。これまでできなかったことに挑戦する機会としたい。
委員長	天井改修は長期間かかるものなのか。
事務局	工事エリアが広範囲に及び、ホールに関しては音響効果に影響が出るため、長期間の休館を要する。
委員	公民館に来てもらえれば、市民とより近い存在となるのでは。
事務局	よい機会と捉えていきたい。
委員長	以上で本日の議事を終了とする。進行を事務局にお返しする。
事務局	本日の会議は、以上で終了する。